

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 3 月 日 作成
20年度決算把握後平成 21 年 6 月 日 作成

事務事業名		勤労青少年ホーム運営事業			<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連	
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部 教育委員会事務局 課長名 高木敏明 所属課 生涯学習課 担当者名 衛藤剛 所属班 生涯学習班 (内線) 2432
	施策	20	生涯学習の推進			法令根拠 合志市勤労青少年ホーム条例
	基本事業	68	学習やスポーツへの参加機会の提供			
予算科目	会計	1	10	5	9	事業連番 10789 <input type="checkbox"/> 20年度で終了 <input type="checkbox"/> 21年度から開始 成果優先度評価結果 5 コスト削減優先度評価結果 9*6
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(開始年度 S63 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)					
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						
【事業の内容】 ・勤労青少年ホーム(御代志市民センター内)の企画運営に関する事業 ・運営委員会の実施 【業務の流れ】 働く青少年たちへ広報、チラシ等で呼びかけ、スポーツや料理等の講座に参加してもらい、互いに高めあう集いを作っていく。 【主な予算費目】 報酬、報償費(講師謝礼)、旅費(費用弁償)、需用費(消耗品費)、役務費						

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動) 20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO) ① 定期講座開催(バドミントン毎週1回、料理月1回×10ヶ月、シルバークレイ月2回×3ヶ月×2期) ② 短期講座開催(ヨガ毎週1回×6回) ③ 勤労青少年ホーム運営委員会開催	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) スポーツ講座、家政・趣味講座を計画
② 対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等 市民(18歳以上30歳以下の勤労青少年)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位) ア 講座開設数 講座 回 イ 講座開催数 回
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 若者同士で交流を深め、知識や教養を高めてもらう。	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位) ア 18歳以上30歳以下人口 人 イ
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか) 学習やスポーツに参加する機会がある	⑦ 成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位) ア 参加者数 人 イ
	⑧ 上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位) ア 学習に親しむ機会があると思う市民の割合 % イ スポーツに親しむ機会があると思う市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

		単位	18年度 実績(決算)	19年度 実績(決算)	20年度 目標(当初予算)	20年度 実績(決算)	21年度 目標(当初予算)	22年度 (目標)	23年度 (予定)	全体計画 ~ 年度	
投入量	事業内訳	国庫支出金	千円							総 ト ー タ ル コ ス ト (期間 限 定 複 数 年 度 の み 記 載) 0 0 0	
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
	(A) 事業費計	一般財源	千円	330	461	349	349	350	350		350
		うち指定経費	千円								
		うち時間外、特殊勤務手当	千円								
		正規職員従事人数	人	4	4	3		3	3		3
		延べ業務時間	時間	300	300	115	120	110	110		110
(B) 人件費計	千円	1,191	1,194	458	478	438	438	438			
トータルコスト(A)+(B)	千円	1,521	1,655	807	827	788	788	788			
活動指標	ア 講座 イ 回		5 100	5 100	4 78	4 72	4 83	4 80	4 80	目 標 合 計 値 画 22 年 度	
対象指標	ア 人 イ		7000	7000	7000	7000	7000	7000	7000		
成果指標	ア 人 イ		110	130	100	75	100	100	100		
上位成果指標	ア % イ %		45.1 42.6	50.8 46.5	45.5 43.3	47.3 44.3	45.8 43.6	46 44			

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

- ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?
昭和62年4月に御代志市民センター内に勤労青少年ホームが開館し、若者向けの講座やサークル活動が始まった。
- ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
類似民間施設増加によるニーズの減少や、若者の趣味の多様化により、参加者が減少している。
また、厚生労働省も勤労青少年福祉対策としては「余暇活動促進」よりもニート・フリーター対策に代表される「就労、自立支援」へ重きを置いてきている。
- ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
講座受講生より、料理講座の回数を半分にしたところ、「月に1回では仲良くなれないので回数を増やしてほしい」との要望があった。

事務事業名	勤労青少年ホーム運営事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部(SEE) *原則は20年度の後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】⇒ 講座を受講することにより意図を満たす。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】⇒ 民間において類似の事業、施設が増加してきている。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】⇒ 勤労青少年ホームとして建設されているから。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 若者全体の生きがいづくりにはまだまだかなり及ばない部分もあり、より多くの若者が参加し、仲間づくりができるようにしていく工夫が必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】⇒ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】⇒ 若者同士の交流の場を求める市民へのサービスが低下する
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか? 類似事業との統廃合ができるか? 類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 勤労青少年のみを対象とするため。 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 講座の回数を減らし、精一杯の削減はしている。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか? (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 現在、職員が事業の企画立案から広報、申し込み等の事務手続きを行っている。それらを嘱託職員で行うことは可能であるが、講座受講生および講座数は減少しつつづけており、嘱託職員を雇用してまで行う業務であるかどうかは疑問がある。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 施設の建設意図からすると適当である。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり	類似民間施設の増加や、若者の趣味の多様化により、参加者が減少している。 また、厚生労働省も勤労青少年福祉対策としては「余暇活動促進」よりもニート・フリーター対策に代表される「就労、自立支援」へ重きを置いてきている。 これらに代表されるように、勤労青少年ホームに対するニーズは低くなってきているように感じる。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない) 事業の内容を講座ごとに反省検証しながら、より魅力的な講座の内容や身近な地域からの講師選定等の見直しをしながら改善したい。 ターゲットとなる若者の多くは回覧板や広報を見ないという意見があるので、市内事業所にチラシを送る等、若者への広報手段も考える必要がある。	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)																							
(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①講師にふさわしい人材の発掘 ②市民への周知を徹底する手段の検討	<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上		○																					
	維持																							
	低下																							

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	5	(直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9)
(2) 貢献度	10	(貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12)